

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	6 月 5 日 (木)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ 虹の色は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
虹がどのようにできるのか、光がどのように色を作り出すのかに興味をもっている。また、色の変化や光のふしぎを感じ取り、身近な現象に対する好奇心が芽生えている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
16:00～16:05	<ul style="list-style-type: none"> ・くもり、雨、雪、晴れ以外の天気や、空に現れる現象は何か考え、発表する。 ・「晴れ、くもり、雨、雪の他に知っている天気はあるかな？」と問いかけたり、①②プログラムでの活動を振り返られるような問いもかけていく。 ・虹の意見が出たことを確認し、今回は、虹について活動することを伝える。 ・虹を見たことがあるか、虹はどんな色か考え発表する。「虹はどんな時に見ることが出来るかな？」と問いかけ、実体験から天気との結びつきに発展するよう援助する。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 室内で虹の写真や描いた絵を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹のイラスト ※人数分 ・ クレヨン（色鉛筆）※人数分 ・ プラコップ ※グループで実験できる数 ・ 水 ・ アルミホイルをつけた白色灯のスマホライト ※それぞれ実験できる数 ・ 白い紙 ※グループで実験できる枚数 ■参考資料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の虹の写真
16:05～16:15	<ul style="list-style-type: none"> ・虹の色や太陽の光について自由に発言し、子どもたちが知っていることを共有してみる。虹の色を予測して絵を描いてみる。 ・虹の色については固定せず、それぞれが感じる色で書いて良い事を伝える。 ・出来上がった虹の絵をみんなで見合う時間を作る。 	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹のイラストを人数分用意しておく。 ・ 虹のイラストの活動でクレヨンや色鉛筆を十分な数を準備しておく。 ・ 予め実験に使うアルミホイルをつけた白色灯のスマホライトを準備しておく。 【実験準備】 <ol style="list-style-type: none"> ①アルミホイルを20cm四方に切り、真ん中にカッターで5cm程度の切れ目を入れる。 ②スマホライトの真ん中に切れ目がくるようにアルミホイルをかぶせておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予め実験の内容を行っておく。
16:15～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミホイル、スマホライト、プラコップを使って実験を行う。【実験①】 ・実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 ・「この実験でどうなると思う？」「どんなものが見えるかな？」と問いかけ、発言を援助する。 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・「何が見えるかな？」「虹ができたね。虹は何色かな？」と伝え、観察の視点や試行錯誤が広がるようにする。 	【実験】 <ol style="list-style-type: none"> ①プラコップに水を入れ、スマホライトの光がペットボトルに反射する位置に紙を置く ②スマホライトとプラコップの角度を見ながら神の位置を変え、虹の写る場所を探す。

16:30~16:40	<ul style="list-style-type: none"> ・虹ができる仕組みを振り返り、太陽の光が実際にいろいろな色を含んでいることを理解し、光と色の関係について話し合う。 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・実際の虹の写真を見ながら虹ができるのはどんな時か考える。 ・「虹がどういう時に現れるかな?」と問いかけ、虹ができる仕組みを考える。 ・「虹が見える時は、雨上がりが多いね。」「虹が見えている時、太陽はいるかな?」と問いかけ、水(雨、水蒸気)と光(太陽)によって虹ができていることに気付けるように工夫する。 ・次回は、太陽についての調べてみることを提案する。 	
-------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに虹の仕組みと光の色について学ぶ機会を作った。 ・最初に「虹は何色?」という問いを投げかけ、子どもたちは自分の考えを自由に発表した。 ・その後、虹を描いて光の色を予測をしたり、イラストを見たりして、実験を行い、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。 ・ブラコップとスマホライトを使い、光が水を通することで色が分かれる現象を観察し、実際に虹を作り、その過程を実感することができた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の最中、子どもたちは「わぁ！虹ができた！」と驚きの声を上げ、興奮していた。 ・光を水に通した瞬間、「あっ、色が出た！」と自分の発見を喜ぶ姿が見られた。 ・一緒に何色があるかを確認しながら進めていく事で、描いた絵と見比べながら楽しんでいた。 ・実験後の振り返りでは、「光って何色があるんだろう?」とさらに深い質問を投げかけ、考えを広げる姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発言を受け入れ、さらに考えを深めるために「どうして虹の色が出るんだろう?」や「他の色はどんなところで見られるかな?」といった質問を投げかけた。 ・実験中には、「どんな変化が起こると思う?」と予測させ、実際の変化を観察しながら子どもたちの発見をサポートした。また、実験を通じて「光の色が混ざって虹になる」という結果を整理するために、最初から工程を伝え一緒に考えたり、発言を促したりしていく事で意見を自由に表現できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、子どもたちは太陽の光の色や虹の色に対する興味を深め、実験を通じてそれらの関係性を理解できた。 ・子どもたち同士で意見を交わしながら、考えを深める姿が見られた。予測と実験の結果の違いを楽しみながら、自分の考えを発表できたことが良い成果につながった。 ・実験活動を取り入れたことで、子どもたちの理解が深まり、より興味をもって参加する様子が見られた。今後も実際に体験できる活動を取り入れていきたい。 ・なかなか実物の虹を見る事は難しい為、戸外遊びの際などミスト状に出る霧吹きなどを持って行き、にじを作って遊んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虹はあまり見られないものであるが、自分たちでも虹が作れるという良い経験になったのではないのでしょうか? ・予測と実験の結果が違ったとしてもその違いにも驚いたり納得したり、様々な思いを感じることが出来、ワクワク体験が出来て良かったと思う。 ・これで終わりにするのではなく、今度は違う学年に子ども達から教えてあげるようになって良いですね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	10 月 9 日 (木)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～食べる～ 食べ物の旅マップを作ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>食べ物が畑や海など自然から生まれ、育てる人・運ぶ人・調理する人といった多くの手を経て自分たちの食卓に届くという「食べ物の旅」をイメージができ、マップづくりの活動への意欲につながっている。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30～9:40	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【準備物】 ・食べ物の絵本 ・前回までの活動の記録 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ・模造紙 ・のり ・色鉛筆 【事前準備】 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。
9:40～10:15	・食べ物が食卓に届くまでの旅を作製するための作成方法や画材を話し合う。 ・必要な用具を用意する。	
15:30～15:50	・完成のイメージをもちながら、製作を進める。 ・作製した食べ物の旅マップを見ながら、活動を振り返る。 廊下に掲示する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・必要な用具を用意し、完成のイメージをもちながら、製作を進める。 ・完成したマップを見ながら活動を振り返る。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動で調べて得たことを思い出しながら、写真を貼ったり、絵や線を描いてつなげたりすることに夢中になっていた。 ・友だちと相談し合いながら「こっちが先だよ」「スーパーを通らないとお家に行けないよ」と順序を考える姿があり、食べ物の流れを自分なりに組み立てて表そうとしていた。 ・完成したマップを見ながら「たくさんの人が手伝ってくれてるんだね」「食べ物っていろんなところから来ているんだね」と振り返り、調べたことを自分たちなりの言葉で再確認していた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこから始まるかな?」「このあとどうなるんだっかな?」と問いかけながら、子どもたちが前回調べた知識を思い出して製作に生かせるよう支援した。 ・表現をサポートしながら、一人ひとりの表現を認めていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動で調べた内容を、自分の手で表現することによって、子どもたちは食べ物の旅をより具体的に理解しようとしていた。 ・単なる知識の再現ではなく、友だちと相談しながら順序やつながりを考える姿から、学びを組み立て直す力が育ちを感じた。 ・完成したマップを見て達成感を味わいながら「食べ物は長い旅をして届く」「いろんな人が関わっている」と再確認する姿に、探究の成果を生活感覚に結びつけていることがうかがえた。 ・製作を通じて、子どもたちの理解が「調べて知ったこと」から「自分で表現できること」へと深まっていた。 ・できあがったマップを保護者にも見える所にも掲示したことで「子の料理ってね」と周りに発信していく姿にも繋がっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと相談しながら、食べ物マップを作るところは、とても子ども達の目がキラキラと輝き楽しそうでしたね。自分たちで作ったマップをみんなに見てもらいたいという思いもあり、廊下に掲示していた子ども達は自信に満ちた表情をしていましたね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	12 月 12 日 (金)	黒光 美咲

● 実施計画

活動テーマ		
アート～この絵どんな絵？～ 絵にはどんな種類があるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
廃材遊びを通して様々な廃材を使って作品を作ることを楽しんでいる。廃材だけでなく様々な素材を用意すると「○○はなにで作ろうかな」「これで○○がつかれそう」と見立てて作品をつくる様子もある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りとして、絵画を見えるように準備し、お気に入りの絵画を思い出せるようにする。 ・絵を描く際に使う道具を問いかけながら、絵の種類について考える。 ・「絵の具やクレヨン以外に、どんな方法で絵を描くことができるかな？」と話し、絵画の多様性を伝える。 	【環境設定】 ・子どもたちが見やすい位置に絵画の種類やコラージュ作品の写真を掲示し、視覚的な参考にできるようにする。 ・子どもたちが材料を自由に選べるように、様々な素材を準備し、手の取りやすいように並べておく。 ・製作に集中できるスペースを確保し、作業しやすい環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。
10:05～11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・コラージュ作品の写真を見せ、どんな素材が使われているかを考える。 ・「何が貼られているかな？」と問いかけながら、材料による表現の違いを発見する。 ・作りたいコラージュの内容を決め、どんな素材が合うかを考える。 ・用意した素材の中から自分の題材やイメージに合ったものを選ぶ。 ・それぞれのコラージュ作品を作っていく。 ・題材が決まっていない子はつりながら題名を考え、切り貼りの工夫ができるようにする。 	
11:20～11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を発表し、「なぜこの素材を選んだのか？」など質問し、作品への思いを発表する機会を作る。 ・「どんな工夫をしたのか？」を聞きながら、自分の表現について振り返る機会を作る。 ・絵は描くだけでなく、異なる素材を使って表現できることを振り返る。 ・「次はどんなものを使って作品を作って 	
		【準備物】 ・雑誌 ・英字新聞 ・パンフレット ・写真 ・毛糸 ・ビーズ ・モール ・はぎれの布など ・のり ・はさみ ・画用紙 ・セロテープ ・ボンド ※コラージュ作品の見本(12月1週目めい)が)を掲示するため

みたい？」と問いかけ、新たな興味を引き出す。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちは最初、コラージュの概念に戸惑いながらも、実際の作品を見たり考えたりすることで興味をもち始めた。</p> <p>・題名を決めてから製作を始める子と作りながらイメージを形にしていき題名をつけていく子もいた。</p> <p>・製作中には、「こういう素材無いかな！」「赤系を集めよう！」と、自分の表現を工夫しながら取り組む姿があった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「木の実とか果物でも色ができるんだね！」と新しい発見をする様子があった。</p> <p>・「新聞って黒と白だけじゃなくて色もあるんだね！」と素材の色や模様に着目する声が聞かれた。</p> <p>「この部分どうやってつくったの？」と多様な表現を認め合う姿があった。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>「どんな題名にしたい？」と問いかけ、考えを引き出していった。</p> <p>・「この素材、どうして選んだの？」と意図を言語化できるようサポートする。</p> <p>・「色や形を工夫すると、もっとイメージに近づくかもね」と表現の幅を広げる関わりを行った。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、最初は「何を作ればいいのかわからない」と迷う場面があったが、コラージュ作品の例を見たり、素材に触れるうちに徐々にアイデアが浮かび、主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>・また、単に好きな素材を貼るのではなく、「題名に合うものを探す」視点が生まれ、目的意識を持って製作する様子が印象的だった。</p> <p>・今後は、異なる技法の作品を比較しながら、表現の選択肢をさらに広げる機会を設けていきたい。</p>	<p>・絵の技法やどの素材を使うなど、いろいろなことに触れることが出来て良かったと思います。</p> <p>・絵を描いたりするのは、平坦だけではなく何を使っても絵の作品になる事に興味を持つことにより、想像豊かに自分の感性で作品を作る事が楽しくなることでしょう。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	2 月 10 日 (火)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
おかね ～おかねってなんだろう～ 必要なもの？ 欲しいもの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>前回の買い物体験で、お金の量には限りがあるため、欲しいものを全ては買えないことを実感した。その経験から、「欲しいもの」と「絶対に必要なもの」を区別し、優先順位をつけてお金を使うという、より実践的な課題に関心が高まっている。必要な物を見極めて欲しいものを我慢する様子もある。</p>		
時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、何を一番買いたかったかを再確認する。 ・「お熱が出て病院に行くとき」を例に、絶対に必要なものと、無くて大丈夫なものをみんなで考えてみる。 ・具体的な場面設定で必要なものと買わないものを考えてそれぞれ発表する。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カード(生活用品、食べ物、玩具などが描かれたカード) ・模造紙 ・鉛筆
10:40～11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「カレーライスを作るための買い物」の状況と架空の所持金を設定し、各グループで「必要なもの」と「欲しいけど買わないもの」を話し合い、買うものを決める。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カードを作成する。カードには値段と名前、イラストや写真を分かりやすく記載し、生活用品、食べ物、お菓子、玩具、移動手段などさまざまな商品を想定する。
11:00～11:10	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが決めた「必要なもの」「欲しいけど買わないもの」と、その理由を発表する。 ・友達の発表を聞いて気づいたことや感じたことを発表する。 ・人によって必要なものや欲しいものが違うことを考察する。 ・お金がたくさんあれば欲しいものがたくさん買える、ではどうすればお金が得られるのか、次回探究することを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、お金には限りがあることを再確認した後、「お熱が出て病院に行くとき」を例に、みんなで絶対に必要なものと無くて大丈夫なもの考えた。</p> <p>・展開では、「カレーライスを作るための買い物」という具体的な状況と架空の所持金を設定し、グループワークを行った。子どもたちは商品カードを使い、「お肉は絶対必要だけど、お菓子とかジュースは我慢しよう」など、活発に話し合い、何をかうかの優先順位をつけた。</p> <p>・まとめでは、なぜその商品が必要だと判断したのか、なぜ欲しいけど買わないと決めたのか、その理由を説明した。友だちの意見を聞くことで、「人によって必要なものや欲しいものは違う」という多様な価値観に気づく機会となった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、「カレーにはお肉は絶対必要だね！」「ジュースも欲しいけど、無くてカレーは作れるからやめよう」など、状況における優先順位を話し合い、協力して結論を出す姿が見られた。 ・意見が分かれた際には、「なんでこれ欲しいの？」と、友達の意見を尋ねたり、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。 ・発表では、「今すぐに必要なのはお薬だから、それにお金を使った」「マスクないと病院に入れないから絶対に必要だよ」など、理由を説明しようとする姿が見られた。 ・友達の発表を聞いて、「私の家のカレーは玉ねぎが入っていないからが要らないって思った」「僕の家は玉ねぎは言ってるから必要だと思った」など、多様な考え方があることに気づく声が上がった。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「欲しい！」という気持ちを否定せず、受け止めと共感する姿勢を大切にした。 ・「絶対に必要なもの」という言葉で、子どもたちに優先順位を意識するきっかけを作った。 ・話し合いを見守りながら、「どうしてそう思ったの？」などの問いを通して、感じたことや考えたことを言葉にできるように援助した。 ・正解・不正解を教えるのではなく、多様な考え方があることを伝え、子どもたちの意見を尊重し受け止めた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・「必要なもの」と「欲しいもの」を区別する活動を通して、子どもたちは自分の感情(欲しいという欲求)と、状況に応じた論理的な判断(優先順位)を区別する力を育んだ。将来の健全な金銭感覚を養う上で非常に重要な一歩だと感じた。</p> <p>・話し合いを通じて、子どもたちは「お金の使い方には、人それぞれ、状況それぞれの考え方がある」という多様な価値観に触れ、社会性を育むことへつながった。</p> <p>・「お金がたくさんあれば」という問いは、子どもたちの関心を「お金をどう使うか」から「お金をどう得るか」という次の探究テーマへの期待感を高めることができた。</p>	<p>このお金で何が買えるか、どこまで買えるかなどの体験は良いと思います。</p> <p>この経験を通じてこのお金の使い方ということで、お仕事したらお金がもらえて自分の好きな物と交換できる体験もしていたので、良い経験になっていると思います。</p>